26

法律の罠　一七ノ十

改造　お印　つゞき

吉田絃二郎

ことを聴いた時は、わしはすつかりあの男を殺さうとさへ思つた。わしはこれではならぬと思つた。わしは気を落ちつけるつもりで碧巌集を出して読んだ。わしは幾時間読んだかなう知らぬ。だがわしの頭には何も映つては来ない。

光子　あれほどあたしたちを信頼さして置いて……（[illegible]笑ひ）人のすることぢやありません。あれを御覧なさい。窓も鍵もみんなはづして運んでしまつたんです。

秀作　もう何もいふな。わしがお目出度い人間だつたのだ。わしは正しいものは常に勝つと信じてゐた。わしは今でも信じてゐる。わしは今日はじめて警察へ行つて法律といふものゝ矛盾を知つた。あの人たちがいふやうにわしはお目出度い人間だつたのだ。